「9 価 HPV ワクチン」の定期接種について

こんにちは。公立八女総合病院 産婦人科医 宮川三代子です。

「HPV」とは
「ヒトパピローマウイルス」
の略です。

みなさんは「HPV ワクチン」をご存知ですか？
以前は「子宮頸がん予防ワクチン」と呼ばれていましたが、子宮頸がんだけでなく、咽頭がんや、肛門がん、尖圭コンジローマの予防にも有効であることから、現在は「HPV ワクチン」と呼ばれています。

「9 価 HPV ワクチン」とは

2 価？

これまでは、２価と４価の HPV ワクチンの定期接種がされていましたが、
令和５年４月から「9 価」の HPV ワクチンが定期接種できるよう現在準備が進められています。
「えー！！私の娘、４価をもう打っちゃた！9 価を待っておけばよかった」
と不安に思われた方もいらっしゃるかもしれませんが「２価」や「４価」ワクチン接種を済ませた方でも十分効果は期待できます。

※「～価」とは、その数字が表す数の種類の～という意味です。
「2 価」は 2 タイプの HPV ウイルス、「４価」は 4 タイプの HPV ウイルスへの感染を防ぎます。

4 価？

日本での接種率

HPV ワクチンはこれまでに世界 110 カ国以上で３億回以上、公的に接種されています。（特に女の子への接種率は 79%）
2013 年から男性にも定期接種が行われているオーストラリアでは、2028 年頃には国内から子宮頸がん患者がいなくなると言われています。

一方日本での接種率は 1.9%と低く、妊娠した時に初めて子宮頸がん検診を受ける方も多いため、日本の 20 代から 30 代の子宮頸がん発症率は、25 年前と比べ 2 倍に増えています。
このままでは、日本でだけ子宮頸がん患者が増えていってしまうかもしれません。

～「HPV ワクチン」の定期接種について～

日本の HPV ワクチンの定期接種の対象者は、小学 6 年生から高校 1 年生までの女の子で一般的に初交前に接種することが勧められていますが初交後でも効果はあります。
（男性の接種も初交前～26 歳位までの接種が推奨されています）
接種は半年～1 年の間に間隔を置きながら 3 回接種します。

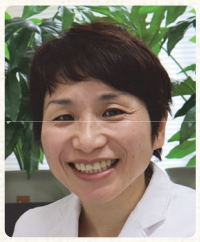
ワクチンの副反応について

副反応については主に接種部位の腫れや疼痛（2-3 日で軽快）などですが、
稀に以下のような副反応を引き起こすことがあります。

- アナフィラキシー（呼吸困難、蕁麻疹など）
- 急性散在性脳脊髄炎（頭痛、嘔吐、意識の低下など）
- ギラン・バレー症候群（手足の力が入りにくくなるなど）

これらの副反応は、他のワクチンでも起こり得ます。

＊「副反応」：ワクチンの接種によって感染症の発生を防ぐ免疫ができる（主作用）のですが、
この時に免疫ができる以外の反応（例えば発熱・腫れ・脳炎など）の事を「副反応」と呼びます。

今後は女性も男性も正しい知識を持ち、家族と一緒に改めて HPV ワクチン接種について考えてみてはいかがでしょうか？
HPV ワクチンについて疑問点や不安などがあればまずは産婦人科、もしくはかかりつけの小児科にお尋ねください。
最後まで読んでくださりありがとうございました。

産科部長　宮川三代子